

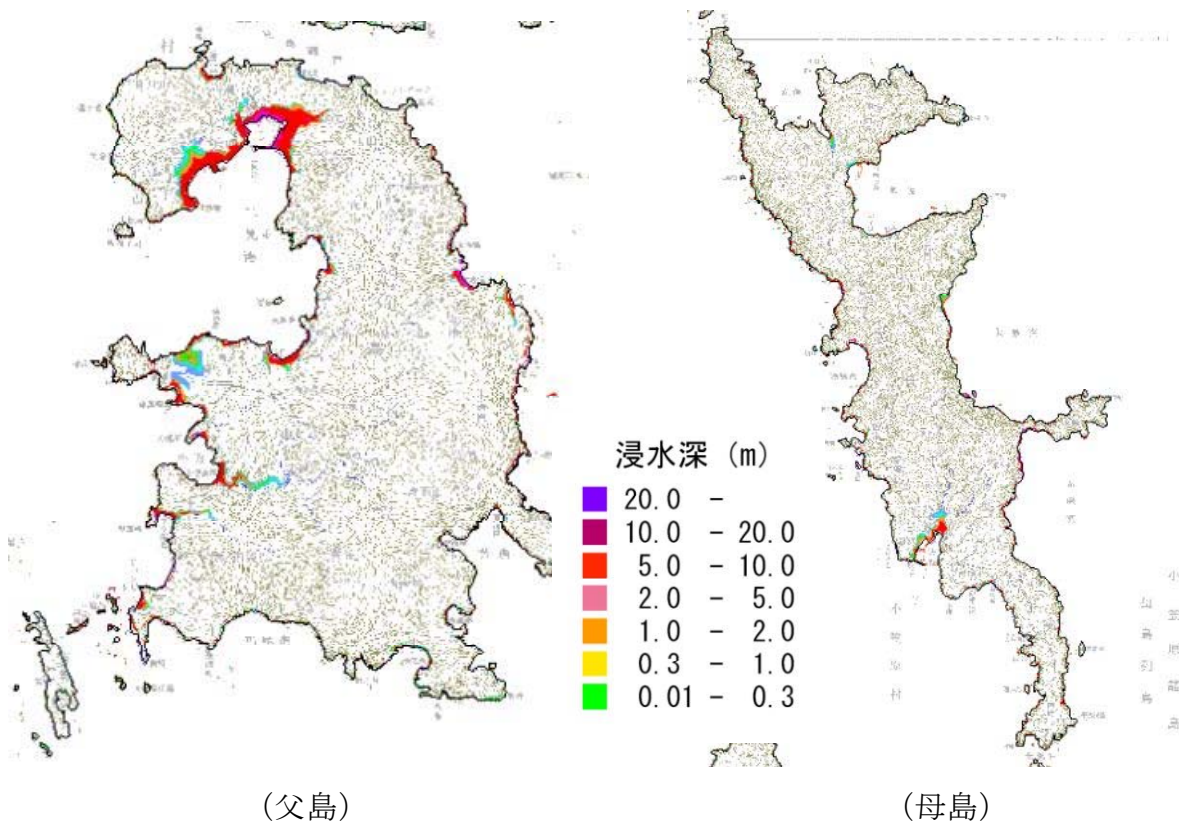
防災対策について

1. 南海トラフの巨大地震の影響

(1) 南海トラフの巨大地震の浸水予測

平成24年8月29日、南海トラフの巨大地震モデル検討会の第2次報告があり、その中で小笠原諸島（属島・硫黄島を含めたすべての島）への津波高は、最大で19.7mと発表された。

今回の浸水予測では、村民・観光客が居住・宿泊する地域に、浸水域・浸水深の増加があると報告されているが、現時点では下図の浸水図のとおり各地点での細かい浸水深の報告はされていない。



※南海トラフの巨大地震とは

- I. 現時点の最新の科学的知見に基づき、発生しうる最大クラスの地震・津波を推計したもの。
- II. 発生時期を予測することはできないが、発生頻度は極めて低いもの。
- III. 南海トラフにおいて次に発生する地震・津波の想定ではない。

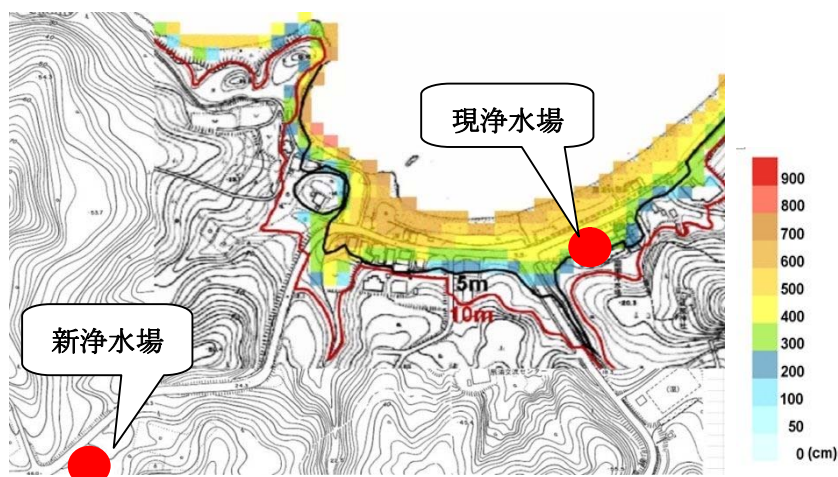
(2) 南海トラフの巨大地震に対する今後の対策

- ① 防波堤や港湾の形状等を勘案した詳細な浸水予測図を来年度東京都で作成予定。
- ② 防災の主要拠点である父島の診療所や避難所となる父島の小中学校なども浸水の可能性もあるため、詳細な浸水予測図をもとに防災体制の再構築を図る。

2. 津波災害への主な対応策

(1) 父島扇浦浄水場の高台への移転（小笠原村事業）

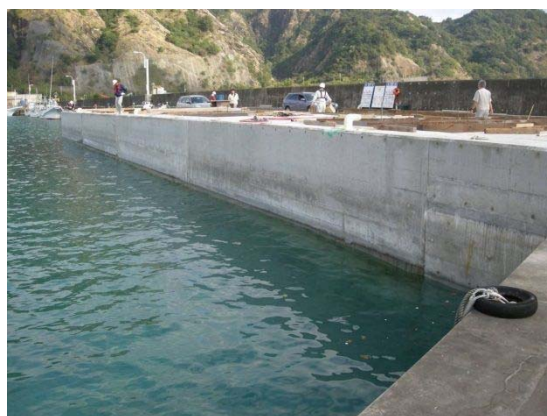
平成24～26年度で建設工事。平成27年度に供用開始予定。（小笠原諸島振興開発事業で実施）



【父島・扇浦地区浸水予測図】

(2) 災害に強い港湾整備（東京都事業）

- ① 東南海・南海地震の発生に伴う津波対策として二見港の岸壁の改良。
- ② 大規模津波等への対策として二見漁港の既存防波堤施設の改良（補強）。



(3) 今後必要な主な防災対策

- ① 津波災害により父島の清瀬奥村間が分断されるため、想定津波高よりも高い標高で清瀬と奥村間を結ぶ防災道路の整備（東京都に要望）。
- ② 奥村旧高校跡地において、雨露をしのげる避難施設の整備。
- ③ 南海トラフ巨大地震を想定した避難訓練の実施。